

第二回 神奈川 転倒災害防止大会を開催しました

神奈川労働局では、転倒災害の削減を図るため、令和5年2月1日に磯子公会堂で「第二回 神奈川 転倒災害防止大会」を開催しました。この大会は、近年増加する転倒災害の防止に向けた機運を高めることを目的としたもので、昨年2月に第一回大会を開催しました。第一回大会はコロナ感染拡大の影響により参加者が約60名に限られましたが、今回大会では約450名もの企業関係者の参加を得ることができました。

(開会時の会場の様子)



冒頭、神奈川労働局（基準部長星野健一）から、「転倒災害の占める位置は、全国統計などを見ても、コロナ感染症による災害を除けば、すべての労働災害のうちの約4分の1近くを占める。平成17年以降トップの座に君臨している。労働災害防止を図る上で、この削減が大きな課題。来年度からスタートする第14次労働災害防止計画には、「転倒災害に取り組む事業場の割合を2027年までに50%以上とする」という数値目標も盛り込まれる予定。転倒災害防止に関してより一層の理解を深め、取り組みの一助となればと考へ、本日の大会を開催することとした。」とのあいさつがありました。

次に当局担当官から、転倒災害は年齢が高くなるにつれ増え、50歳以上で顕著、特に女性、転倒の6割以上が骨折、休業日数が長期化するなどの特徴を説明し、昨年度に実施した自主点検結果を踏まえ、安全管理体制、安全（衛生）協議会の審議、転倒の原因を踏まえた取り組みなどを説明しました。

続いて日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)から、転倒防止対策を含めた事例発表がありました。同社では経営層主導により組織体制を構築し、労働災害防止を推進していること、現場と本社課題を整理し、それぞれの立場の役割を明確化し、多角的な分析を踏まえて、現場の安全対策や安全意識向上を図っていることなどの説明がありました。

(日本ケンタッキー・フライド・チキン(株) 直営営業管理課 課長 阿部一彦氏)

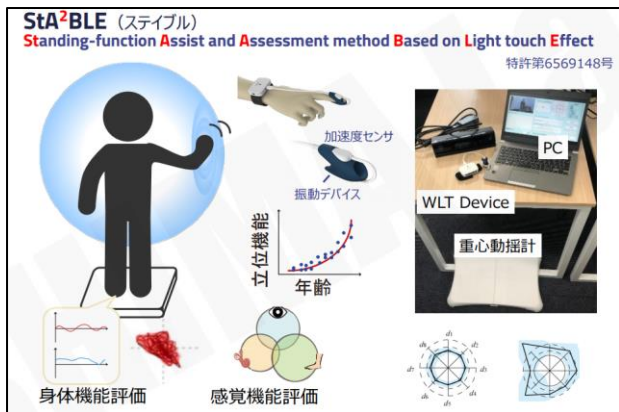


続いて横浜国立大学発ベンチャーのUNTRACKED(株)から隠れた転倒リスクを「立位年齢[®]」として見える化する装置及びその測定結果を踏まえた健康づくりの紹介がありました。

この装置は横浜国立大学准教授の島圭介氏の研究を実用化したもので、「ライトタッチ現象」を応用した全く新しい転倒リスク

計測装置であり、筋力や体力だけでなく感覚機能に起因する真の転倒リスクを客観的に数値化するものとの説明がありました。

(UNTRACKED(株) CEO 島圭介氏から説明のあった立位機能検査装置の概略)



そして長年「転倒」の分野の研究に携わってこられた(公財)大原記念労働科学研究所の客員研究員の永田久雄氏から「転倒災害のメカニズムと安全衛生活動について」と題する特別講演がありました。

同講演では実際の転倒災害の動画を交え、転倒災害の動向、転倒リスク要因、具体的には歩行通路のリスク、作業者のリスク、安全管理上のリスク)、安全衛生活動の基本的な考え方などの説明がありました。

((公財)大原記念労働科学研究所
客員研究員 永田久雄氏)



その後、神奈川産業保健総合支援センター(以下「神奈川産保センター」という。)副所長の赤前幸隆氏から転倒防止につながる健康づくりとして「健康応援！ゼロ災無料出張サービス」という専門家派遣サービスの紹介がありました。

(神奈川産保センター 副所長 赤前幸隆氏)



最後に磯子公会堂の所在地を管轄する横浜南労働基準監督署長(齊藤裕紀)から行政現場で感じたことなどを交えつつ、本日の事例発表、転倒リスク可視化装置、特別講演、健康づくりなどの取組を参考として、各事業場に戻られてから、さらに転倒防止に取り組んでもらいたい旨要請し、本大会を締めくくりました。

神奈川労働局では、転倒災害が増え続けていることを踏まえ、転倒防止の好事例などを広報し、地域全体で、転倒を含めた労働災害防止のための機運を高めたいと考えております。事業者の皆様におかれましては、引き続き労働災害防止についてご協力をお願いいたします。

本件問い合わせ先: 神奈川労働局労働基準部
安全課 (電話: 045-211-7352)